

暖地型牧草の特性に関する研究

(第4報) 収量および乱物率について

大 山 一 夫

(九州農業試験場)

1. 試験方法

前報に述べた方法で栽培した暖地型牧草について3年間の収量および乾物率などを調査した。

2. 結果および考察

乾物収量は図2にみられるとおりである。年間合計収量はカブラブラグラス、スプレンドイダなどが多収であ

り、1番草の収量はケイヌビエなどが多収であった。乾物率はウィーピングクロリスなどが高く、スプレンドイダなどが低かった(図1)。

しかし、多収を得た草種でも、発芽・初期生育、再生病虫害、越冬性、採食性、採種などの面で若干の問題点を持っているものが多かった。

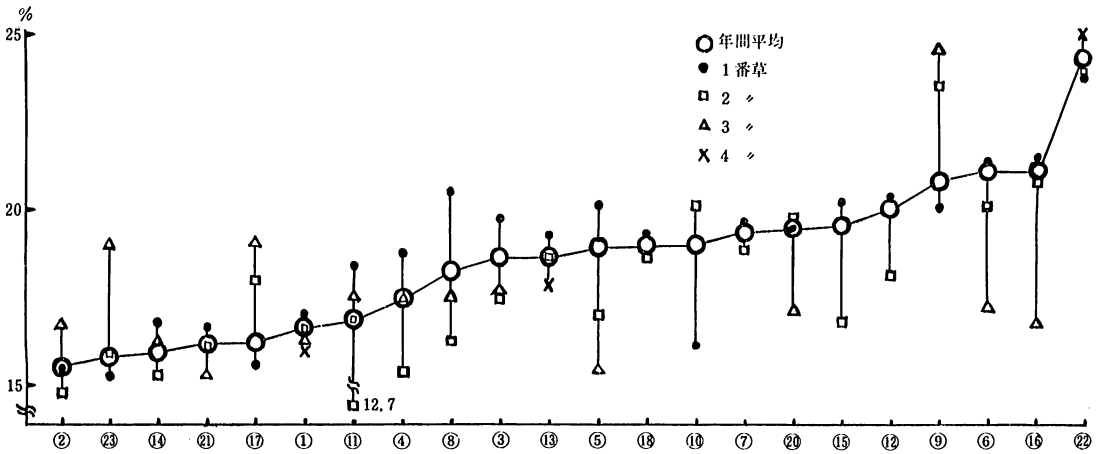


図 1 乾 物 率

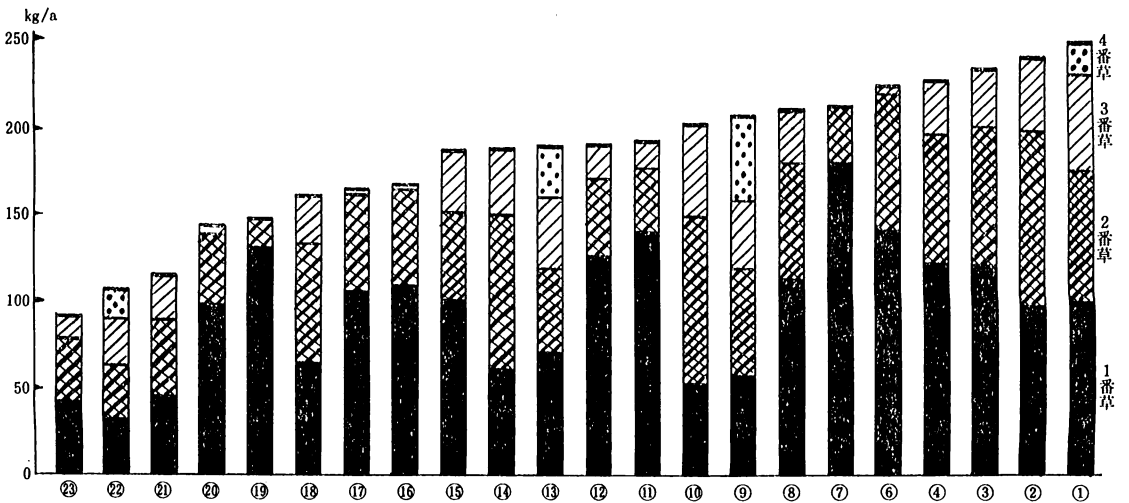


図 2 乾 物 収 量

(注) 草種名の番号は前報のとおりである。